

Pure-Cognition

ザ・フライ「ヴァイオレット・ルーム」を愛したすべてのクロウネンバーギストたちへ。

Why?



未来を見るな。

X

What's happened!?

1984年 アヴェリッツ国際ファンタスティック映画祭

批評家賞

ヒッチコック・サスペンス賞

黄金のアンテナ賞

1984年 IMAGFIC (スペイン) 国際映画祭

最優秀作品賞

最優秀監督賞

1985年 東京国際ファンタスティック映画祭招待



監督+脚本

アイヴィッド・クロウネンバーグ

原作

スティーヴン・キング

出演

クリストファー・ウォーケン

ブルック・アダムス

マーティン・シーン

©1985 DE LA LAURENTIS CORPORATION

ALL RIGHTS RESERVED

未来を変えろ。
 $E = G \frac{mm'}{d^{2.00000016}}$
 $P_2 = \frac{om_0}{\sqrt{1 - \frac{u^2}{c^2}}}$

y

Post-Cognition

デッドゾーン
THE DEAD ZONE

1983年 アメリカ カラー 1時間43分

提供=東北新社

配給=ユーロスペース



この春、日本でも公開され映画ファンの圧倒的支持を得て大ヒットした『ザ・フライ』。折からのSFXブームにのってメイクアップの異様さだけが注目を浴びた感はあるが、根本的には今までのクローネンバーグ作品とテーマ的な違いはなかった。『ラビッド』(76)からはじまり『スキヤナーズ』(80)『ビデオドローム』(82)そして『ザ・フライ』へと続く彼の世界は、常に正常な人間たちとは異なるアウトサイダーを描き出す。主人公たちは内面的に、または外面的に変形され正常な世界からはじき出されてゆく。

そのクローネンバーグが怪物『ビデオドローム』に続いて作りあげたのがこの83年製作『デッドゾーン』。第1回東京国際ファンタスティック映画祭で上映され、クローネンバーグファンのみならず多くの映画ファンからも喝采を浴びた娯楽大作である。スティーヴン・キング原作によるこの『デッドゾーン』には、前述した作品のようなグロテスクな部分は見られず、異様な状況設定から生まれた愛を見事に描いた「ラブ・ストーリー」として一級品の価値を持つといっても過言ではない。

『デッドゾーン』のストーリーは、基本的には『スキヤナーズ』と同じなのです。自分は正常で、社会の確固とした一員だと思っている男が登場します。彼は完全なアウトサイダーとして描かれます。どんなに正常な人間に見えても、彼はアウトサイダーであり、自分自身をよく知っています。

クローネンバーグは主人公ジョニーについてこう語っている。これは『デッドゾーン』だけではなく、彼の作品に共通するテーマである。彼の描くアウトサイダーという概念は、文学の世界から映画の世界へ入ってきた自分、同じ英語圏でありながらアメリカ映画の恩恵をほとんど受けていないカナダという国に生まれた自分、という彼固有のアイデンティティの問題から導き出された自分自身への問いかけでもあるに違いない。だからこそ、外面の変形性に依拠することなく、主人公の孤独な内面世界を描いたこの『デッドゾーン』が、クローネンバーグを理解するうえで重要な作品となってくるのである。

彼の作品系列から見れば異彩を放つ本作に製作資金を出したのは、あのディーノ・デ・ラウレンティス。最近では『キングコング2』(86)で健在ぶりを発揮、スペクタクル性と娯楽性を追及し続けるプロデューサーとして名高い。この映画のために1000万ドルを投資したことを考えると、クローネンバーグの才能に異論をはさむものはいないだろう。原作はおなじみスティーヴン・キング。『キャリア』『シャイニング』など次々と話題作を発表し、現代恐怖小説作家としてのその地位は揺るぎがたい。これまでに映画化された数々の作品のなかでも、『デッドゾーン』は最高レベルの一本として高い評価を得ている。

主演のジョニーにクリストファー・ウォーケン。繊細なイメージはこの主人公のジョニーにピッタリといえる。そして恋人のサラには『天国の日々』(78)『SFボディ・スナッチャー』(78)のブルック・アダムス。その独特な個性は、80年代を象徴する新しいタイプ的女優を体現している。上院議員のグレッグを『地獄の黙示録』(79)でその名を馳せたマーティン・シーンが演じ、作品に厚みを加えている。

1984年アヴォリアッツ国際ファンタスティック映画祭・批評家賞
 ヒッチコック・サスペンス賞/黄金のアンテナ賞
 1984年IMAGFIC(スペイン)国際映画祭・最優秀作品ロイヤル賞
 1985年東京国際ファンタスティック映画祭招待
 最優秀監督賞

1983年
 アメリカ映画
 カラー 35ミリ
 ヴィスタ・サイズ(1:1.85)1時間43分



監督+脚本
 デイヴィッド・クローネンバーグ
 製作総指揮
 ディーノ・デ・ラウレンティス
 原作
 スティーヴン・キング
 撮影
 マーク・アーウィン
 音楽
 マイケル・カーメン
 出演
 クリストファー・ウォーケン
 (ジョニー)
 ブルック・アダムス
 (サラ)
 マーティン・シーン
 (グレッグ)
 トム・スケリット
 (バナーマン保安官)
 ハーバート・ロム
 (ウィザック博士)
 提供=東北新社
 配給=ユーロスペース



高校の英語教師ジョニーは同僚の婚約者サラとのデートの帰り道、大型トレーラーと衝突、奇跡的に一命をとりとめたが昏睡状態に陥る。

5年間の眠りからさめたジョニーには離れた場所で起こっていることを感知する能力が備わっていた。そればかりか、〈過去〉や〈未来〉を見る力があることも知った。

サラとその夫ウォルトが選挙運動を手伝っているグレッグ・スティルソンの演説会場に足を運んだジョニーは恐るべきヴィジョンを見てしまう。大統領になったグレッグが核ミサイルの発射ボタンを押すのだ! ジョニーは未来の惨劇を防ぐため彼を殺そうと決意する。

グレッグが演壇に立ち話し始めた時、ライフルを構えた彼が立ち上がる。「ジョニー!」。サラの声に動揺したジョニーの狙いははずれ、グレッグはサラの子供を循に逃げ廻る。フラッシュがたかれ、彼の政治生命を断つことになる写真が写された。

ボディガードの放った銃弾に倒れたジョニーのもとにサラが駆けよる。「何故?」の呼びかけにジョニーはただ「愛してる」と一言ささやいて息を引きとる……。

絶賛公開中!

ユーロスペース tel.461-0211
 渋谷駅東急ラザ側下車2分 東急観光うしろ

開映=先着入場・入替制

土・日	12:00	2:00	4:00	6:00
月→金	1:00	3:00	5:00	7:00

料金=当日一般1500円 学生1300円

●土曜・日曜は混雑していますので、なるべく平日にご鑑賞ください。

